



エデュテイメント脚本 第3弾！

町の電器屋を舞台に繰り広げられるナニワの中小企業コメディ
「デンキのヒーロー」を執筆

大阪市立大学商学部の本多 哲夫教授は、中小企業の経営革新や社会性などについて楽しみながら考えることができるエデュテイメント*脚本の第3弾「デンキのヒーロー」を執筆しました。

これまで本多教授（地域経営論・中小企業論）は、自らの講義や研究をもとにオリジナルの脚本を執筆し、演劇、ラジオドラマ、朗読劇などを通して中小企業について発信してきました。なかでも、中小企業の後継者問題をテーマにした「継ぐまちファクトリー」、存亡の危機に瀕する地元商店街の奮闘を描いた「ショッピング・ハイ！」の長編脚本では、本学の学生劇団「劇団カオス」やその卒業生などからなる演劇ユニット「エデュテイメンツ」がその役を演じ、大きな話題となりました。

今回執筆した長編脚本「デンキのヒーロー」は、ヒーローに憧れる主人公 大門隼人が倒産寸前の電器屋の立て直しを図るコメディドラマで、演劇とのコラボも企画中です。大阪に実在する電器屋さんをモデルとした、実話に基づいたストーリーとなっています。大学発の「教育・研究」と「演劇」が融合した非常にユニークな取り組みについて、ぜひともご取材ください。



ショッピング・ハイ！公演の様子

エデュテイメント*：エデュケーションとエンターテインメントの融合（造語）

「デンキのヒーロー」あらすじ

大門隼人（だいもん・はやと）はヒーローショーイベントの企画制作会社に勤めていたが、社長が借金苦から夜逃げをしてしまい、会社が倒産してしまう…。

隼人は実家の電器屋に戻るが、この店も倒産寸前。

従業員は隼人の後輩の江森（えもり）だけになってしまい、父親は4年前に他界。母親が社長を引き継いでいるがお気楽な様子…。

江森は隼人が店を立て直すことを期待しているが、隼人は諦めムード。しかし、隣の花屋の店主、栗（しおり）に隼人が一目惚れし、栗に好かれたいがために、店の立て直しに取り組み始める!!

ヒーローショーで培ったアイデアは次々と当たり、店は復活を果たす…が、そう上手くは行かず…!?

電器屋と大門隼人の成長、ビジネスと正義の葛藤を描く、ナニワの中小企業コメディ!!

【本件に関するお問合せ先】

大阪市立大学 商学部 教授 本多 哲夫

E-mail : honda@bus.osaka-cu.ac.jp

Twitter : @edutainmentsu

HP : http://honda.whs.osaka-cu.ac.jp/edutainmentsu/

【報道に関するお問合せ先】

大阪市立大学 広報課 担当：三苫

TEL : 06-6605-3411

E-mail : t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp